

# 三重県立熊野古道センターからのてがみ

“The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center”

2007,VOL.4



山本一貴君  
(以下、かんずう)

川口有三さん  
(熊野古道語り部友の会副会長)

川邑まつよさん  
(熊野古道語り部友の会副会長)

小久保純枝さん  
(以下、すみえ)

秋は熊野古道を歩くのに絶好のシーズン！今回は、熊野古道を一度も歩いたことのない地元の若者代表が、現役の語り部さんをつかまえて、熊野古道伊勢路の魅力を聞き出します！

川口さん：この絵図は熊野古道センターオリジナルの熊野旅曼茶羅図といい、伊勢路を中心に自然・歴史・祭り・伝統などが盛り込まれたものです。

かんずう：そもそも、伊勢路ってなんですか？

川口さん：伊勢参拝を終えた巡礼者が熊野三山を目指して歩いた旅路が伊勢路です。この曼茶羅からもわかるように、峠をいくつも越える旅路です。

すみえ：険しそうですね。熊野生まれなのに一度も歩いたことがないんです。私にも歩けますか？

川口さん：短めのコースもあるし、健康なら歩けますよ！

すみえ：歩いてみようかなあ。最近熊野が有名になって、東京の友達からいろいろ聞かれるんです。熊野古道の紅葉はどんな感じですか？

川邑さん：熊野古道周辺は常緑樹が多いので、みなさんが期待されるような紅葉は少ないんです。でも、深い緑にちらほらと浮かぶ赤や黄色が美しい。

川口さん：それから、秋の楽しみはアサギマダラという渡り蝶の来訪です。南へ渡る長い旅の途中に熊野へ立ち寄るんです。



アサギマダラ

川邑さん：石畳を彩るアサマリンドウや風伝嵐も楽しみだなあ。それに秋冬は空気が澄んで峠からの海や山の景色が、びっくりするほど綺麗！



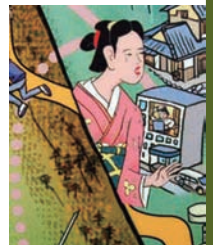
風伝嵐

川口さん：そうそう。それと以前、北海道からのお客様をご案内した時に「熊野の山は、冬でも青いんですね。」と言われてハッとした。なるほど、と感動したよ。熊野古道は秋冬も緑が美しい。

川邑さん：秋冬はマムシもおらんし安心！

かんずう：ところで、絵図の中のこの女性は誰ですか？

川口さん：これは尾鷲節で有名な八鬼山悲恋話のヒロイン・お柳です。



お柳

すみえ：かんずう、好きな人の為に八鬼山を越えられる？

かんずう：もちろんですよ！！

川邑さん：この絵図には民話や当時の様子などが描かれ、おもしろいですね。私は時々、もし昔にタイムスリップしたらと想像するんです。熊野へ大変な思いをしてでも来たかった人達のこと。

川口さん：景色を見るだけでも感動するけれど、文化や歴史をほんの少し知ってみると熊野古道をもっと体感できるんじゃないかな。

かんずう：いろんな面で濃い土地ですね。熊野に生まれたことを前より誇りに思えるような気がします！

Pick  
up

## 「企画展 くまのこどうの夏やすみ」と体験教室

展示を通して東紀州の山や海の生き物を知り、体験教室で生き物と触れ合い、自然とのつながりを体感してもらいたいという願いをこめた「くまのこどうの夏やすみ」にはたくさんの子供たちがやってきてくれました。

他の地域ではなかなか見ることができなくなってしまった生き物などを採集して、先生と楽しく調べる姿がとても印象的でした。



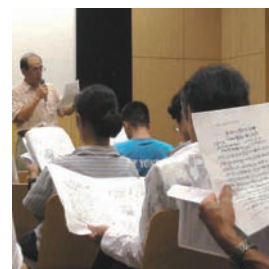
## その他のイベントレポート



←7/29、熊野古道講座Ⅲ「始神峠・明治の道の樹木研究会」30種類を超える樹木の説明を受け、峠に着く頃にはずいぶん見分けがつくようになりました。



←7/9、尾鷲市梶賀浦に伝わる魚の燻製料理「あぶり」と「梶賀」をまるごと楽しみました。  
7/28、第3回道中記に親しむ会「筏師の道」の様子。 →



まめ熊野塾

## Guide &amp; Tips

## 「熊野と俳句」

みなさん、ご存じでしたか？ ここ熊野が実に俳句とゆかりの深いことを。古くは芭蕉から三浦樽良、斎藤茂吉ら偉大なる先達が、この地を材に数々の“うた”を残しています。馬越峠に建つ可涼園桃乙の句碑はつとに有名ですし、また、かの中上健次が今回、当センター主催の吟行会で講師を務める茨木和生氏へ直筆の句をしたためた色紙を贈ったという珍しいエピソードも。もちろん現在でも、名のあるなしを問わず、熱心な俳句愛好家たちの“熊野詣”はとどまることをしりません。海・山・川、そして神——。今も昔も、詩情あふるるここ熊野には俳人、歌人をはじめ、すべからく表現者のインスピレーションを喚起させる、なにか不思議な磁力のようなモノが秘められているのでしょうか。あなかしこ。



吟行会の舞台のひとつ、松本峠のお地蔵様

## 「尾鷲ヒノキ」

熊野古道センターは、三重県の尾鷲市と紀北町で生産される尾鷲ヒノキを約6500本使って建てられました。尾鷲ヒノキは年輪が密で、樹脂分に富んでいるためにしなやかで強く、赤みの美しい色艶が特徴です。また、防虫防菌成分であるカジノールが多く含まれています。他の産地と違い、苗木を密植して何度も間伐を行う独特の技が受け継がれてきました。

しかし今、この山の循環がくずれかけようとしています。少しでも自然環境について知り、感じ、学んでいただくために、熊野古道センターでは尾鷲ヒノキを通していろいろな活動をしています。



赤みが美しい尾鷲ヒノキ

## 秋の企画展「伊勢型紙で巡る熊野古道伊勢路」

ツヅラト、馬越、八鬼山越え…幾多の旅人が越えた峠道を彫る—上地芳弘の彫型画と祈りのみち

平成19年9月15日(土)~10月15日(月)@企画展示室  
会期中無休、入場料無料

熊野古道の風景や東紀州の自然などを、伊勢型紙を用いて表現し続けている熊野市在住の上地芳弘さんの彫型画・約30点を中心に展示します。繊細な技術と想像力によって表現された旅路の風景を通して、「熊野古道・伊勢路」の魅力を感じていただきたいと思います。

伊勢型紙体験教室 9/15(土), 22(土), 30(日), 10/7(日)  
◇参加料: 300円 ◇定員: 5名 ◇時間: pm1:00~4:00 ◇講師: 上地芳弘氏

実演コーナー 9/16(日), 23(日), 29(土), 10/6(土), 13(土), 14(日)  
上地芳弘氏の「花の窟神社」実演製作。◇時間: pm2:00~pm4:00  
※諸都合により急遽日程等を変更する場合がございますので、ご了承ください。



第57回県展入賞作品「観音道」

10/26  
fri~

## 企画展「まぼろしのやきもの 南紀小山焼」

平成19年10月26日(金)~12月16日(日)@企画展示室  
会期中無休、入場料無料



明治3年、現在の紀北町海山区小山浦でひとつの窯が開かれました。小山焼は藩営と民営で約2年という短期間だけつくられ、日用品が中心であったため残存数も少ない幻の焼き物です。また、当時においては東紀州地域で唯一の窯場でもありました。今回は、江戸から明治という大きな転換期に花開いた南紀小山焼の歴史と残された作品紹介を通じて、当地域の歴史、文化への理解を深めていただければ幸いです。

### その他の体験学習教室

**毎土日「その場で作れるひのきアートの世界」**  
ヒノキを削ってできる「ひのきシート」の体験学習が、来館してその場でできます。旅の思い出に、是非どうぞ!  
◇しおり200円、お箸300円(市木木綿の箸袋付は600円)  
◇時間: pm1:00~3:00 ◇当日体験・予約可  
◇講師: 当センターコーディネーター池田比早子 ◇定員: 応相談  
※日程が変更となる場合有。※月別講座の日はお休み。

**月別「ひのきアート教室」**  
「ひのきシート」は魔法の素材! 月別でいろいろ作ります。  
◇定員: 10名 ◇時間: pm1:00~3:00 ◇講師: 池田比早子  
9/23(日) 亀作り 800円  
10/21(日) ちょうちん作り 1,000円  
11/18(日) クリスマス飾り 1,000円  
12/16(日) 正月飾り 1,500円

9/16(日) 11/11(日) 12/9(日) 「バードカービング」  
鳥について学びながら彫刻技法をマスターします。シャープな印象のセキレイを三回連続講座で完成させます。  
◇参加料: 1,000円 ◇定員: 10名  
◇時間: am10:00~pm3:00(昼食持参) ◇講師: 嶋田春幸氏

9/23(日) 「料理教室V(秋の味覚・キノコ)」  
地域食材を使う料理教室。今回はキノコを贅沢に使います。  
◇参加料: 2,000円 ◇定員: 24名  
◇時間: am11:00~pm2:00 ◇講師: 相可高校 村林新吾先生  
※以降は、10/20(土)、12/2(日)に開催予定です。

### 講座・講演

9/22(土) 第4回道中記に読み親しむ会  
「曾根の石、江戸城へ行く」  
昔の旅日記などを通じて、熊野古道周辺の歴史に親しむ講座です。江戸城の石垣に使われた曾根石(尾鷲市)の旅を追います。  
◇参加料: 随時資料代 ◇時間: pm2:00~3:30  
◇講師: 森口啓男氏(曾根郷土資料館) ※次回11/24開催予定

9/29(土) 古道講演会  
「観音信仰と現地研修—岩屋堂の観音石像参り—」  
西国三十三所霊場・那智青岸渡寺の高木亮英副住職をお招きし観音信仰の講演会と馬越峠の岩屋堂で現地研修を行います。  
◇参加料: 500円 ◇定員: 講演会150名, 現地研修50名  
◇時間: am10:00~pm4:30 ◇講師: 高木亮英氏

10/24(水) 俳句吟行会  
松本峠を起点に景勝地を散策しながらの吟行会。自然美の宝庫「熊野」で、あなたじしんの「うた」を詠んでみませんか。  
◇講師: 茨木和生氏(俳誌「運河」主宰、前NHK俳句選者)  
◇時間: am9:00~pm5:30(JR熊野市駅前に集合)  
◇参加料: 1,000円 ◇定員: 40名

### 新しい熊野古道の歩き方

12/1(土) 民話の里巡り「赤倉」  
民話の世界そのままの風景が今も残る育生町赤倉の里(熊野市)を巡り、民話の舞台や里の歴史・文化を体感するツアーです。  
◇詳細が決定的次第広報いたしますのでお楽しみに!

お申込みはお電話か、直接センターにてどうぞ! TEL:0597-25-2666



熊野古道からの  
のがみ

# 4 通目

初秋の候となりました。その後  
お変わりなくお過ごしのこととお  
喜び申し上げます。

私もお陰様で熊野古道の保全や  
語り部の活動をして元気にすこし  
しております。いつか熊野古道の事  
を知りたいということだったので  
筆をとりました。

熊野古道とのつきあいは早いも  
ので8年になります。今は観音道  
の保全に力を入れ、雑草を刈った  
り、台風、強風後の倒木や小枝拾  
い等の掃除をしています。猪が土  
を掘り起こしてミミズ等を捕るた  
め古道にいたずらをしますが、彼  
らが餌にありついたらどうか、気  
にしながら補修をしています。

苦むした石畳や古道脇に立つ西  
国三十三所にちなんぞ寄進された  
観音石像を見ていると、古の観音  
信仰の思いが感じられ、これらを  
後世に残し伝えなければと思っ  
ています。



観音道登り口に、西国観音石仏の第五番～第十五番が並ぶ。



次は尾鷲市の  
川口有三さん



向井弘晏さん(熊野市)  
熊野古道語り部友の会会員  
熊野参詣道環境保全指導員  
近畿自然歩道パトロール員

世界遺産登録直後は観光パスが  
連なり賑わいましたが、今はグル  
ープや家族連れが落ち着いた雰  
気度古道を楽しまれています。

古道歩きの楽しみ方も色々です  
が、古道脇に四季折々咲く可憐な  
山野草や樹木を見て歩くのも、ま  
た江戸時代の西国巡礼者がどのよ  
うな思いで歩いたかなど思いを馳  
せながら歩くのもよいものです。

当地は自然に恵まれ、神話や伝  
説が数多く残っています。古道を  
歩いて熊野の自然や歴史、文化を  
じっくりと味わっていただきたい  
です。私はこれからも緊張らず、  
ゆったりと古道の保全を続けてい  
きたいと思えます。

追伸 今、古道にはリンドウやホ  
トトギス等の花が咲いています。  
熊野古道には是非お越しください。  
お待ちしております。

## 花尻 薫からの 季節のたよりNo.4 「ヒガンバナ(彼岸花)」

昭和14年(1939年)頃から戦後にかけて流行した歌謡曲  
「長崎物語」の一番に「赤い花なら曼珠沙華 阿蘭陀屋敷  
に雨が降る 濡れて泣いてる じゃがたら (ジャワ島)  
お春 未練な船出の ああ鐘が鳴る ララ鐘が鳴る」

60才以上の人々なら、戦後の混乱の中、せつなく口ずさんだ思い出があるのではないのでしょうか。ヒガンバナはなぜ、人の心を引きつけるのでしょうか。墓地や神社の境内で人知れず咲く、鮮血のようないろどりの花。しかも有毒で実を結ばないなど不思議なことが多くあります。

原産地は中国大陸の揚子江のどこかであろうと言われ、人間が大陸から日本に運びこんだという説があります。ヒガンバナは青森県と北海道には見られませんが、人間の生活範囲内に限り出現しつつも、人の管理の手を離れて雑草化しています。また、一説には縄文時代に食料として日本に持ちこまれたともいいます。

しかし、ヒガンバナは有毒植物で、オヤゴロシ、シビレバナとも呼ばれていますが、有名な植物学者小野蘭山は、三重県の飯南郡粥見であくぬきをして食用にしていたと記録しており、江戸時代の天明・天保の大飢饉にはヒガンバナで飢えをしのいだという言い伝えもあります。

当地では、秋のお彼岸の頃になると申し合わせたかのように、墓地や田畑の畦でいっせいに開花します。美しい花ですが、有毒ですから気をつけてくださいね。



## お知らせ

☆熊野古道写真コンテスト  
「東紀州の四季」をテーマに東紀州の風景・祭り・風物詩の魅力を表した写真を募集中です！  
審査員 竹内敏信氏  
(日本写真家協会副会長)  
最優秀賞(1点)賞金5万円  
優秀賞(1点)賞金1万円  
入選(多数)  
締切:平成19年11月23日(当日消印有効)  
入賞・入選作品は熊野古道センターにて展示予定。応募要項等詳しくはホームページをご覧ください。

☆横垣峠道はただいま災害により通行禁止となっております。詳しい情報は、御浜町産業建設課迄(05979-3-0521)



- お車: 国道42号線で尾鷲市内→矢の浜南交差点を海側へ曲る→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
- 電車: JR尾鷲駅下車→(徒歩5分)三重交通「尾鷲駅口」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
- 松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

☆熊野古道センターニュースレター☆  
“熊野古道センターからののがみ Vol.4”  
●発行日: 2007年9月5日(季刊)  
●編集・発行: 三重県立熊野古道センター  
(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)  
●編集担当: 久保  
●連絡先: 〒519-3625  
三重県尾鷲市大字向井字村島12番4  
TEL 0597-25-2666 FAX: 0597-25-2667  
メール info@kumanokodocenter.com  
HP http://www.kumanokodocenter.com/  
●開館時間: 午前9時～午後5時  
入場料: 無料  
休館日: 12月31日、1月1日  
(その他メンテナンス時休館) 65000070905SK